連盟ニュース 神奈川　１月

No.516

「霞沢岳（左）と赤岳西壁主稜（右）」（雪童山の会　石井武四朗）

１月１日発生した能登半島地震は日々報道されているように､甚大な被害をもたらしています｡亡くなられた方々には謹んで哀悼の意を表するとともに、被災されたに方々には心からお見舞いを申し上げます。

石川県連内で現状把握できている被災状況

能登半島地震では幸い、石川県連会員に人的被害はありませんでした。ただ被災者は 10 名弱おり、うち数名が避難所へ避難している模様です。日本勤労者山岳連盟は被災地の復興支援と労山会員の救援および救援活動のために、募金活動を開始します。各地方連盟役員のみなさまには、加盟各団体を通じて救援募金の呼びかけをお願いします。１月１７日付日本勤労者山岳連盟理事長通達

事故一報」の送付先をお知らせします。

＊「事故一報」の全国・県連へ迅速な連絡＊

全国窓口：労山基金制度運営委員会メール kikin@jwaf.jp/FAX03-3235-4324

県連窓口：遭難対策部メール及び基金申請書は、ホームページの連盟員のページから

神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0045　横浜市神奈川区神奈川２－１４－６　トーリクビル３階

https://k-rouzan.net/

発行責任者　早川尚武

発行年月日　２０２４年1月１５日

１月号（Ｎｏ．５１６）　目　　次

セルフレスキュー講習会 ―――――――――――――――――――――――――――― ２
「ファーストエイド講習会」報告書 ―――――――――――――――――――――― ５
常任理事会議事録 ―――――――――――――――――――――――――――― ８
各会の活動報告 ―――――――――――――――――――――――――――― １０
県連のスケジュール ―――――――――――――――――――――――――― １４

セルフレスキュー講習会　鷹取山　２０２３/１１/２６

参加者：７所属会より２１名。各自名前紹介後、連絡／趣旨説明後、４班に分かれて講習開始。

救助隊：１班につき２名、全体監督で２名、合計１０名。

　　朝からセッティングして１班につき３本のロープを掛けた。

講習内容：単独懸垂下降、介助懸垂下降、登り返しと再懸垂下降　（全て懸垂下降含む）

【単独懸垂下降】

・参加者には、まずは単独で全員一度懸垂下降してもらい、次の介助懸垂下降の前に、懸垂場所に慣れてもらった。救助隊側としては、参加者の装備不足、装着不備、および懸垂の習熟度をチェック。

・懸垂下降のやり方は、１週間前に同じ場所で行った救助隊だけの事前確認で、いろいろ試した結果、「参加者に理解しやすく」、「登り返しに移りやすく」、「体への負担が少ない」と思われた以下の方法で行ってもらった。全員懸垂下降の経験はあるようで、大きな問題はなかった。

・単独での懸垂下降の方法

　確保器はビレイループの位置でセット。バックアップの方をPASなどで延長して、確保器の上にセット。どのやり方でもメリット・デメリットはあるが、この位置関係の場合、バックアップと確保器の間に足用フリクションを取り付ける形で、登り返しに移行しやすく、再懸垂下降への移行もしやすい。また、PAS で確保器の上にセットしたバックアップは、そのままボディのフリクション用として使える、などがメリットとして挙げられる。

【介助懸垂下降】

・介助懸垂下降は、救助者役と要救助者役でひとり２回ずつ行ってもらった。安全確保のため、各班の救助隊の１人が上から要救助者を、もう一人が下から救助者をトップロープでバックアップ。

・介助懸垂下降の時は、ＰＡＳで延長して、その途中に確保器を上に取り付け、バックアップは確保器の下でビレイループにつなぐ。そのため単独懸垂下降のときとは上下逆になる。ＰＡＳの先の余った部分を要救助者のビレイループにつないで、ＰＡＳで確保器を支点に振り分ける。要救助者の後ろ側を救助者が支えながら前後(上下)になって懸垂下降するため、ＰＡＳの振り分けは要救助者の方を短くする。懸垂下降中に救助者と要救助者が離れないよう、お互いのビレイループをクイックドローなどでつなぎ、ＰＡＳで三角形を形作る。

・介助懸垂下降をスムーズに行う決め手は、救助者と要救助者のPASの長さが大きく影響するように思われる。要救助者側は短めにし、ロープに近づけて動きを制限した方が、救助者はやりやすいかもしれない。

【登り返しと再懸垂下降への移行】

・懸垂下降中、まだ接地していないとの前提で、地上にて懸垂下降をセットして、そこから登り返しの練習をしてもらった。足を少し浮かせられるようであれば、そこから登り返しスタート。

・お互いぶつかったりして狭くはあったが、ロープの本数(4班で12本)が多かったおかげで、同時に多くの人が練習出来て良かったのではないかと思う。

・やはり苦労する点の多くは、セットの仕方や手順もあるが、フリクション(特に足用)が締まり過ぎてテンションを抜いても動かせなくなる、というのが多かった。原因は、フリクションの種類や巻き数、使っているスリングの種類などが考えられるが、登り返しは、アルパインクライミングや沢登りをやるうえで、比較的行う頻度が高く、非常に重要な技術であるため、いろいろ試してみて、自分で考えて工夫して練習して納得して、確実に身につけていただければと思います。

■受講参加者の感想

【良かった点、満足した点】　大変満足　４２％、満足　５８％

・仮固定のやり方がよく分かったのと、介助懸垂を実際にやってみる事ができたこと。

・たくさん実践できた。

・レスキューや登り返しの理解を深める事が出来た為。

・アクシデントはいつも起こるわけではないが、必要な対処方法の訓練は常に行わなければならないので訓練機会の確保は重要。

・丁寧な指導をしてもらいました。

・本でも見たことない作業をすることができ、楽しかったです。

・顔見知りの人も増えてきて楽しかったです。土曜日が仕事なので日曜日にやってくれるのもありがたいです。講師の方々と受講生の方々で参加自由の反省会と言う名の飲み会もセットでくっつけて欲しい（笑)。

・こういう技術は一度ではなかなか身につかないので反復練習が出来てよかった。

・懸垂下降の再確認や介助懸垂の体験ができて良かった。

・受講者の安全を確保していただきながら、懸垂下降等岩場での必要なロープワークが学べた。

【理解しやすさについて】　　とても理解しやすい ４２％、理解しやすい ５０％、とちらとも １％

・少人数での班分けに講師も数人ついてくれてたのでしっかりアドバイスして貰えた。
・みんなへの説明とは別に、個人個人にしっかり教えてくれたから。
・あまり難しい部分はなく，なぜそうなっているのかなどしっかり説明されていた。また，疑問が残るような部分も実践するなかで理解できることがあった。
・１から説明してもらえた為。
・少人数で教えてもらったので、分かりづらいところを質問しながらやることができた。
・講師が１グループに２人ついており質問しやすかった。
・私が分けられた班は他の班の方が説明していると比べるとちょっと説明が足りないと感じた。たまたま他の班の説明を聞いたら丁寧に説明をしていた。
・講師の人数が多く気軽に質問もできる雰囲気があって良いです。
・少人数チームで十分練習出来た。
・丁寧に教えてもらえた。
・システムの説明を受けてから、講習を受けられたので、理解しやすかった。

【今後生かせそうな点や言葉】

・いざとなった時の為に身に付けておきたい技術なので定期的に練習していきたい。介助懸垂は体重差が大きいと難しいと実感した。
・登り返しは足を掛けるスリングが固まってしまうので、別にロープスリングか、プルージックコードが必要だと感じた
・クライミング力・レスキュー力・ガレ場力 が重要
・仮固定、登り返しの技術
・登り返し、介助ラペリングともにいかせそうです。引き出しが増えました
・救助隊Ｋさんの「皆さんのレスキュー力が思ったよりも不足している」という言葉を肝に銘じます。
・懸垂下降のバックアップの取り方、確保器の上下の違い。
・懸垂下降時のバックアップ、介助懸垂を経験できた。

【今後企画してほしい講習について】

・マルチピッチ講習やソロクライミング講習、ギア使い方講習。
・セカンドの一時的な引き上げや、ガイドモードでのビレイの際にロックしたときの対応など。
・クライミング中の事故対応(リードのアクシデントからの救出方など)もいくつかの場面を想定し、練習したい。
・プーリーやアッセンダー使用の救助やシステム作りなど。
・講習以外でも他会と交流できる企画をバンバンやってほしいです！　ありがとうございました！
・支点構築やマルチの手順確認など
・雪山歩き。
・今度は、読図講習にも参加したいと思った。

「ファーストエイド講習会」報告書

実施日　時間：１１月２５日（土）１０ 時～１５ 時（昼食休憩を挟んで）
場　所　神奈川勤労者山岳連盟事務所
主任講師　早川 尚武（救助隊隊長）　講師：若澤伸子（教育部）　助手：縄壮（教育部）
受講者数（合計１８名）　みずなら山の会（９人）、藤沢山の会（５人）、川崎労山（２人）、
アルパインクラブ横浜（１人）、相模アルパインクラブ（１人）

【ＦＡとは何か、目的】

ファーストエイドとは、あくまで応急処置であり、その目的は、それ以上状況を悪化させず、必要最低限の生命維持を行い、かつ身体の安全を確保する事である。私達が事故に遭遇した時、できる限り適切な処置を施し、要救助者の生命 と身体の安全を確保し、更には回復に向かわせるための手助けをするための行動である。また、重要な行動に心肺蘇生法があり、日本救急医療財団心肺蘇生法委員会が、原則 5 年ごとに改訂している「救急蘇生法の指針」に基づいて行う。(直近は２０２０ 年版)

１．ＦＡキットの説明

各自普段持ち歩いているものを出してみた。三角巾は、新品かアイロンをかけた清潔な物を入れておく事。創傷時、出血、捻挫した時の手当てに必要な物と保温のためにホカロン、蜂等の虫刺されにポイズンリムバー、救急用のレスキューシートを入れておくとよいと講師から説明あった。

２．ファーストエイドの実践

１） 事故発生時の初動

・処置行動の基本は、事故の発生を認知した時、それが外傷なのか、発病なのか、まずは状況を把握する。次に要救助者の安全確保し、生命維持、悪化させないための医療者以外にできる最低限の処置をおこなう。

①自分自身と他のメンバーの安全確保を最優先
②状況の確認（事故発生の時間や場所、要救助者の年齢、性別)、受傷機転の把握
③役割分担の決定。救助体制時のリーダー (※パーティーメンバーの構成によっては、ＣＬ 以外もなり得る。 医療関係者等） 安全監視係 連絡係 記録係
④救助活動開始。要救助者への接近、触接

⑤ファーストエイドの実施

２）要救助者への発見から接触

①救助者や、他のメンバーの安全確保が確認できたら、行動を開始する

②周囲の状況が把握できたら、要救助者へ接近、触接する。この時、必ず声を掛けながら近づき、事故の状況によっては頚椎を痛める恐れがあるので、頭側や背中側から近づかないようにする。要救助者には、できるだけ動かないように指示し、落石には厳重注意。

③周囲の者は絶対にむやみに騒がず、安心させる事が最優先。

④要救助者の病状、怪我の状況等を確認。転・滑落による高エネルギー傷害である場合は、 どこからどの様に落ちたのか、どこをどの様に傷めているのか、受傷機転を確認する

３） 体位変換

要救助者を発見し、傷病の状況、意識・呼吸の確認後、要救助者の体勢を変えるには、どの様にすればよいか。「動かしていいのか分からない」「動かしてはいけない」ではなく、動かさなくては何も始まらない。頚椎の保護をしながら、要救助者の状態把握と、手技を施すための体位の変換を行う。人工呼吸の時は、「頭部後屈顎先挙上法」。受講者同士で、時間をかけて訓練してもらった。

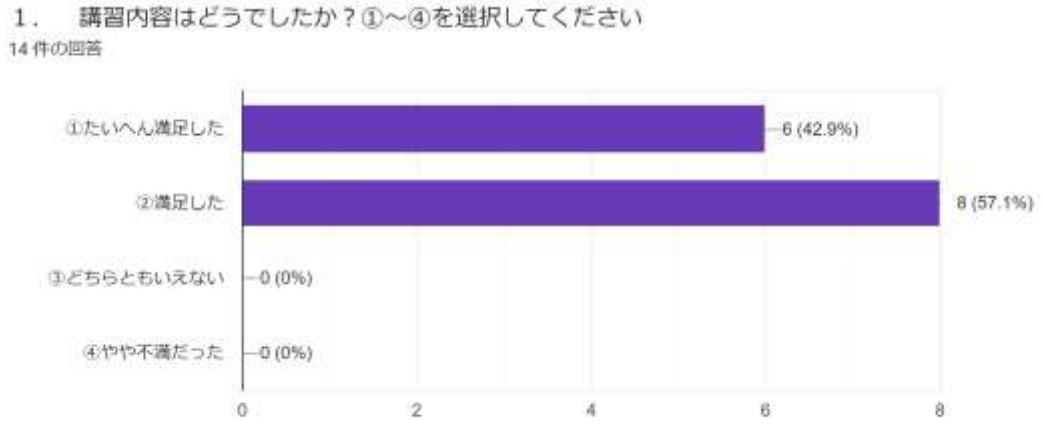
４） ＣＰＲ 訓練　（２体の訓練用ダミー人形を使用）

人形の口にマウスピースを入れて、下顎挙上し、鼻をつまんでふさぎ、胸骨圧迫 ３０ 回後、口から息を吹き込む手技を学んだ。全体重を載せるのが難しく、人工呼吸は、正しい吹き込みを行わないと空気が漏れて肺が膨らまず、繰り返し訓練を行った。

５）シミュレーションによる総合練習

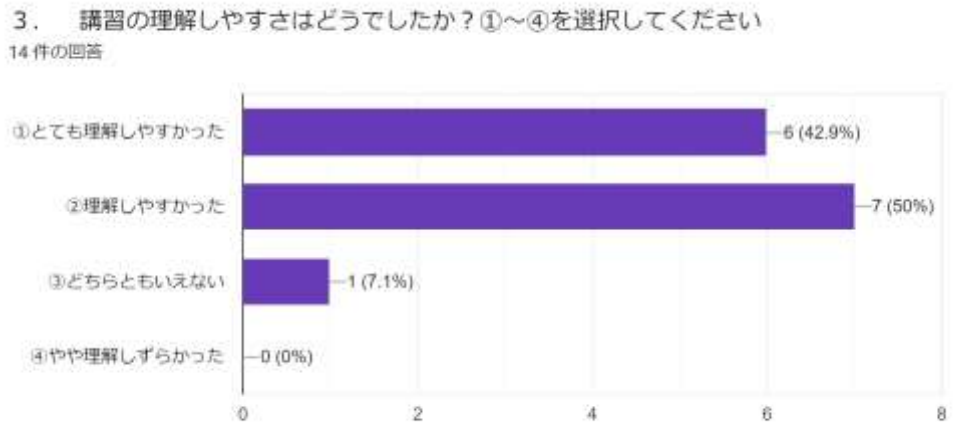
午後は、傷病者へのアプローチから手当までのシミュレーション。参加者２人～５人ずつに班分けし、訓練した。山行中に起こりえる色々な状況を想定し、救助、医療機関に引き渡すまでにどのような対処をしたらよいか、何を記録すればよいか。登山道から滑落し、足を怪我した場面や、落石が頭部にあたり出血した等、実例を踏まえて行った。

【講習後のアンケート結果】　回答率83%（15/18）



２．　１について、そう感じたところを具体的にあれば記入ください（１３件の回答）

・心臓マッサージと人工呼吸の練習ができたこと、シチュエーションゲームがためになったから。
・前半は時間を取って何度もやれたので、コツも覚えられたし、忘れ難いと思う
・実技が多かったため
・知ってるつもりが出来ない。
・自身が事故に遭遇した時どのような対応が出来るか具体的に体験できた。
・ＰＣＲは手技的に上手くできませんでしたが、会ではやってないので教えて頂いて良かったです。 午後は、少人数で色々な事故を想定したデモストレーションができてためになりました。
・興味深い内容で実際に起こり得る内容だから
・色々なシチュエーションでの事故に対しての救護の仕方を学べました。
・実際の山行中の事例をあげながらのお話で分かりやすくて良かったです
・体位の変更や心臓マッサージ、人工呼吸を再体験できた。



４．３について、そう感じたところを具体的に記入してください（１１件の回答）

・具体例を交え説明があったところ

・①を選ばなかったのは、まずはじめにポイントを説明してから実演という形で進めなかったので、やって学んだことが全てか分からない。

・それぞれの実技に時間をかけてくれたため
・実践てきなやり方はよかったです。
・実体験や経験を紹介してくれたのは良いが系統的でない。資料が欲しかった。
・事故や救助の実際にあった事例など用いた説明や、その場面場面での具体例での説明と体験学習が良かった。
・シュミレーションを交えながら、自分でも体験しながら出来たので大分以前に教わった事の復習をさせていただいたようで、また自分の中で納得できたような気がします
・丁寧に説明してもらえた。
・午後の内容は、参加メンバーでシチュエーションを確認、整理できる時間があると、さらに分かりやすかったと思いました。要救助者の観察の仕方や、体位の移動の仕方など、説明、指導、体験、フォロー

５．今後の登山計画で生かせそうだと思ったところや、言葉はありましたか？　具体的に書いてください（１４件の回答）

・ファーストエイド必需品、怪我人が出た時の行動手順。活かせそうなところはいっぱい有り過ぎて書けない。テキストが無かったので途中からスマホにメモを取り出した。
・リーダー任せにしない、とにかく動く
・前後の確認は改めて大事ですね
・一から覚えた事
・受傷者は当初は興奮していて痛みなどを感じにくい。自身の経験からも納得です。
・実際の事故で、パニックにならずに冷静に動けるように、毎年でも参加して同じ内容であっても、身に着ける事が大事だと感じました
・何事も記録を取る
・機転をきかす。リーダーが必要。
・改めて持って行く備品の確認をしないといけないと思いました
・登山中や日常で必要な場面があったら、活用できたらと思う。
・怪我人を救急隊に引き渡すまでの救命と保護 計画書は紙で持参 遭難時は誰かが指示役になる、連絡用の携帯をあけておく、記録をとる
・ファーストエイドキットは各自が持参した方が良いかな。
・触っていいのかな？から、まず仰向けにして、呼吸の確認、などできることがあると気づけた

常任理事会議事録（Ｚｏｏｍ）

日　時　１月１４日（日）２０：００～２１：１５
出席者　早川、渡辺、関根、岩田、縄

早川理事長より

○通常の各部からの報告と、議案書の検討。
○今日議案書一次案は事務局部から一部分が出ているが、いろいろな事情から他からはない。次回常任理事会２／３を待たずに議案書一次案提出をお願いする。
○あとで報告があるが、１２／１７政次郎尾根事故について、自然保護部からのしっかりした検証報告をお願いする。

教育部より

○来季活動方針　昨年の実績ふまえ気象講座を一回ふやす、あとは２０２３年と原則同じ。交流会は実施するが効果薄いので検討必要あり。講習費用は来季の机上講習は無料だが、実技講習は受講者からは受益者負担、受講者の意識づけ等の理由から有料がよいとの声あり、来季１０００円徴収の

方向。

救助隊より

○この間の活動ないので報告なし。今年２月訓練山行　３／１６・１７雪崩講習、雪中訓練は雪の中でのテント泊を予定しているが、参加者の要望に備えて小屋泊まりも手配中。１２万円全国より下付され使途もきまりつつある

自然保護部より

○「里山を歩く」の企画は、武蔵五日市駅スタート、１／２０、案内人坂爪氏。

○クリーンハイクー２／２６第１回実行委員会、各会から実行委員だしてほしい

○２０２３年１２月１７日実施「山小屋に泊まろう」参加者の反応は良い。

○自然保護部内で役割分担を決める方向で検討中

○政次郎尾根事故について

「山小屋に泊まろう」２日目１２／１７、長尾尾根コース班、政次郎尾根の下山中に足を滑らしてＮさんが負傷。軽傷と判断、自力下山をめざす。救助隊呼ぶことも検討したが、事故発生時間１３時半ころなのでパーティーで下山と判断。しかし思ったより痛みがひどくペースダウン。途中木の又小屋女性スタッフ１人が合流、戸沢出合から車に乗せてくれるようにと要請して先に下山。さらに男性スタッフ２人が合流、負傷者をサポート、同時に女性を先に下山させることを決断。やがて日没となり、ヘッドランプ点灯。戸沢出合で要請した車に乗せ、大倉の風の吊橋先から救急車で搬送。休日診療所の診察の結果骨折と判明、入院・手術の必要と。負傷者Ｎ氏自宅近くの新百合ヶ丘総合病院に入院、翌々日（１２/１９）手術。１／１４退院した。

早川　重大な事案と認識すべき。認知バイアスに留意してほしい。事故のあとの未来位置確認ができてない。ケガについてのファーストエイドの処置はどうだったのか。日没時間を踏まえた救急の判断にミスがあるのではないか。私語が多かったとの指摘もあるが、危険への予測は十分だったのか。山は地形的に不安定なので行動に注意が必要。いずれにせよ自然保護委員会でしっかりとした報告書をお願いする。

岩田　藤沢山の会として、この事故を理由にして退会者がでた。会としてダメージはある。運営委員会で、検証は県連で行うべきだが会としても危機にさいしてマニュアルを作る話が出ている。

事務局部より

○事務局部議案書一次案の検討

新スポ連より　なし

その他　なし

質疑応答　なし

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告　2023年　12月

活動報告送り先：　ホームページの連盟員のページから

沢：沢、講習会：講	人数	形態	H:ハイキング、A一般登山、S雪山	人数	形態	SKI山スキー、R岩、氷 ｱｲｽｸﾗｲﾐﾝｸﾞ	人数	形態
川崎ハイキングクラブ　機関紙「りんどう」			http://kawasaki-hc.life.coocan.jp/					
報告：守口尚美　計94名（男42　女52　）　平均年齢68.歳								
10/29　城山／津久井	19	H	11/21-23　東六甲・有馬富士／兵庫県	5	A	12/2　沼津アルプス／静岡県	9	A
11/12-17　壱岐・対馬ウォーク／長崎県	7	H	11/22　室内例会	27		12/3　大山・三峰山／丹沢	3	A
11/12-17　乳房山／小笠原母島	13	A	11/23　杓子山／山梨県	10	A	12/7　高川山／山梨県	7	A
11/18-19　大福山・高塚山／千葉県	19	A	11/26　鷹取山／横須賀	9	A	12/9　塔ノ岳／丹沢	5	A
11/18-19　瀬上の森／横浜	6	H	11/26　赤ぼっこ山／奥多摩	9	H	12/10　陣馬山／高尾	16	A
11/18-19　天園／鎌倉	6	H	11/27　景信山・陣馬山／高尾	7	A	12/10-11　鶏足山／茨城県	6	H
川崎勤労者山岳会　機関誌：「あざみ」　http://sangakukai.wix.com/kawasakirouzan								
報告：田中良子　計17名（男11女6）　平均年齢58.0歳								
11/29大菩薩嶺	3	H	12/10谷川岳	5	A	12/21塔ノ岳	1	H
12/2九鬼山	1	H	12/14高尾山	1	H	12/22東稲山	1	S
12/3箱根　明星ヶ岳ほか	1	H	12/16湘南 鷹取	3	R	12/23-12/24谷川岳	5	A
12/3兜明神岳	10	S	12/17古賀志山	5	R	12/24湘南鷹取	2	R
12/5湘南鷹取	2	R	12/17丹沢　丹沢山	1	A			
銀嶺会(https://ginreikai101.wixsite.com/ginrei)								
報告：　計5名（男0　女5 ）　平均年齢								
12/2 裏同心ルンゼ	3	R	12/9 大同心北西稜	1+1	R	12/19 裏六甲　烏帽子岩	1+1	R
12/2 城山	1+1	R	12/11 裏同心ルンゼ	1+1	R	12/23-24 西穂高岳	1+1	A
12/3 三つ峠	1+1	R	12/17 足尾松木沢	1+2	R	12/23-24 ジョウゴ沢	1+1	R
小田原ナーゲル山の会　機関誌：　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ https://www.nagel.jp								
報告者：西村　悟志　計19名（男12　女7）　平均年齢　60歳　（5月現在）								
12/3奥多摩　三方山	1+4	A	12/22長者ケ岳	1+1	A	12/30丹沢　丹沢山	1*1	A
12/10千葉　富山	1+4	A	12/26丹沢　大山	1	A			
12/17忍野杓子山	3	A	12/29丹沢　今倉山	4	A			
会名　みずなら山の会　ホームページ　http://www.mizunarayama.com/								
報告者　木津博子　人数　31名（男 17名・女 14名）平均年齢　67歳								
12/2・3　忘年山行　箱根	17	H	12/16・17　大山周辺（県連）	2	H	12/24・25　菰釣山・御正体山	1	A
12/9　矢倉岳	3	H	12/17　高尾山	4	H	12/28　棒ノ嶺	5+1	A
12/10　茅ヶ岳	2	H	12/17　幕岩（桃源郷）	7	R			
12/10　鷹取山	4+1	R	12/23　湘南平	6	H			
藤沢山の会　機関誌：「稜線」　http://fujisawa-yamanokai.com								
報告：大野淳子　計99名（男：38、女：61）　平均年齢64歳								
12/1百蔵山(1,003m)&九鬼山(970m)	4	H	12/10要害山（丸山）	15	H	12/17大山・女坂イタツミ尾根	1	H
12/2モミソ岩（懸垂岩）アイゼントレ	4	R	12/10青宇治橋～丹沢三峰～塩水橋	2	H	12/20塔の峰	2	H
12/2梅ヶ瀬渓谷	4	H	12/10黒岳&雁ヶ腹摺山 富士山眺望2023 No.4	5	A	12/21幕岩	5	R
12/2清八山、本社ヶ丸	14	H	12/11渋沢丘陵	11	H	12/22菊花山～九鬼山北東尾根	6	H
12/2大山三峰	3	H	12/13小仏山から高尾山	6	H	12/22箱根湯坂道	2	H
12/2大山・男坂イタツミ尾根	1	H	12/14広沢寺　弁天岩	9	R	12/23黒斑山	2	H

12/3大山ネクタイ尾根～梅の山木尾根	6	A	12/14岩戸山～鷹取山	2	H	12/23黒斑山	3	H
12/4広沢寺	5	R	12/16大山イタツミ尾根から北尾根	15	H	12/23鍋割山北尾根（寄から雨山峠経由周回）	4	A
12/6大山	2	H	12/16鋸山⇒三浦富士・武山	13	H	12/23金時山・金時神社入口足柄駅	1	H
12/7ゴジラの背尾根（通称）から鍋嵐	6	A	12/16大山三峰山～鍋嵐	5	A	12/24入笠山	5	S
12/8鎌倉中央公園～台峰緑地～六国見山～大平山～獅子舞	7	H	12/17八王子山・熊笹山	4	H	12/26三浦アルプス	4	H
12/8仏果山　経ヶ岳	2	H	12/17衣張山～天台山	9	A	12/29北横岳・縞枯山	4	S
12/9箱根・湯坂路	11	H	12/17長尾尾根から新大日	7	H	12/30日向薬師~日向山、梅の木尾根を周回	4	H
12/9峰の松目・硫黄岳・根石岳（桜平駐車場起点）	3	S	12/17県連自然保護委員会企画、ヨモギ尾根から三ノ塔	7	H	12/30丹沢表尾根バリエーション	2	H
12/9大山・春岳沢右岸尾根イタツミ尾根	1	H	12/17赤岳	3	S	12/9・10北アルプス焼岳＆根子岳・四阿山	5	S
						12/28・29赤岳（テント泊）	3	S
やま++　http://yamaplapla.sakura.ne.jp								
報告：計18 名（男10女8 ）　平均年齢61.0歳(23/12/31現在)								
12/5 奥武蔵　武川岳	3	H	12/12 箱根　明神ヶ岳明星ヶ岳	4	H	12/17 箱根　白銀山	5/2	H
12/29 奥多摩　大岳山	4	H	12/28-30 裏磐梯スノーシュー	*3/1	H			
山岳会　カモの会			http://www.kamonokai.com/hp/index.html					
報告:カモの会事務局　計57名　（男34　女23 ）　平均年齢42.6歳								
12/02 奥多摩／破風山	1+1	A	12/09 2023雪訓1班、赤岳鉱泉?硫黄岳	6	S	12/17 湯河原幕岩	3	R
12/02【雪訓】唐松岳	2	S	12/09 2023雪訓日帰り谷川岳	2	S	12/17 御岳	1	R
12/02 鷲頭山（代替：その他の岩場）	3	R	12/09 相州アルプス	1	H	12/17 鷲津（代替：神奈川の岩場）	1+1	R
12/02 城山(代替　湯河原幕岩、佐久志賀)	2	R	12/09 有笠山（代替:長野、東京、埼玉、群馬、福島の岩場）	3	R	12/17 御岳ボルダ―	1	R
12/02 湯河原	1+1	R	12/09 湯河原幕岩	1+1	R	12/23 雪訓＆シール歩行訓練	5+1	S
12/03 畦ヶ丸	1	H	12/11 八ヶ岳 雪訓＆裏同心ルンゼ	1+1	氷	12/23 谷川岳雪訓	2	S
12/03 榛名黒岩	1+3	R	12/13 広沢寺アイゼントレ	1+1	R	12/23 伊那前岳-宝剣岳-三ノ沢岳	2	S
12/03 三ツ峠 アイゼントレ	2	S	12/16 富士山	1	S	12/23 西穂高岳 西尾根	2	S
12/03 北川 （代替：城山）	1+1	R	12/16 雪崩捜索訓練	1+20	S	12/23 湯河原幕岩	3	R
12/06 三叉峰ルンゼ?石尊稜	1+1	R	12/17 物見山	1	H	12/23 城ケ崎	1+1	R
12/09 2023雪訓2班(木曽駒ヶ岳)	5	S	12/17 飛竜山	2	A	12/23 城山	2	R
12/09 2023雪訓3班	5	S	12/17 足尾銅山 松木沢ジャンダルム	1+2	R	12/23 城山（代替：神奈川の岩場）	1+1	R

M&C（マウンテニアリングアンドクライミング） http://mandc.moo.jp/								
報告： 計25名（男18 女7 ） 平均年齢51.2歳								
12/1～12/3 三宅島	1+2	R	12/14 広沢寺	1	R	12/23 沼津アルプス	1	H
12/2～12/3 八ヶ岳（西面/中山尾根、裏同心ルンゼ～大同心北西稜）	1+2	R	12/16 宮之浦岳（屋久島）	1+1	A	12/23～12/24 城山	1+4	R
12/2～12/3 八ヶ岳（中山尾根、裏同心～大同心北西稜）	1+2	R	12/15 仏果山	1	H	12/23 陣馬山	1	T
12/2 湯河原幕岩（正面壁）	1+3	R	12/17～12/18 夏沢鉱泉。アイスギャラリー/裏同心ルンゼ	2+2	氷	12/24 巻機山	2+1	S
12/2 鳳来（鬼石）	1+3	R	12/16～12/17 二子山祠	2+2	R	12/24 八ヶ岳（裏同心ルンゼ～小同心クラック）	2	R
12/2 八方尾根スキー場	1+1	S	12/16 湯河原ボルダー	1	R	12/24 丹沢山	1	T
12/2～12/3 城山	1+1	R	12/17 足尾（松木沢周辺）	2+1	R	12/24 御前岩	2	R
12/4～12/4 城山（南壁）	1+5	R	12/17 城ヶ崎海岸（シーサイド）	1+1	R	12/25～12/27 猪苗代スキー場	1	S
12/8 御岳ボルダー	1	R	12/17～12/19 東海自然歩道（富士吉田）	1	H	12/28～12/31 北アルプス（中崎尾根～槍ヶ岳西稜）	2	R
12/8 御前岩	1+1	R	12/17 群馬岩櫃山	1	H	12/31～1/5 夏油高原スキー場	2	S
12/9～12/10 足尾（松木沢周辺）	1+2	R	12/17 八ヶ岳（南沢大滝）	1+2	氷	12/27～12/29 鳳凰三山	1+3	S
12/9～12/10 岐阜（瑞浪）	1+1	R	12/17 城山（チューブロック）	1+2	R	12/27 御前岩	2	R
12/10～12/11 八ヶ岳（春日渓谷～夏沢鉱泉アイスギャラリー）	1+1	氷	12/17 湯河原	1+1	R	12/27～12/28 備中	1+1	R
12/9 足尾（ジャンダルム）	2+1	講	12/18～12/18 城ヶ崎（シーサイド）	1+2	R	12/29～12/30 八ヶ岳（広河原沢左股）	1	氷
12/9～12/10 城山（チューブロック）	2	R	12/18 御岳ボルダー	1	R	12/29 唐松岳（押出沢）	1+1	S
12/10 日光鳴き虫山	1	H	12/21 湯河原ボルダー	1+3	R	12/29 足柄金時山	1	H
12/10 古賀志山	1+1	R	12/21～12/21 御前岩	2	R	12/29 城山（チューブロック）	1+3	R
12/10～12/11 春日渓谷	1+3	氷	12/22 城山	1	R	12/29～12/30 城ヶ崎海岸	1+4	R
12/11 湯河原幕岩	1	R	12/23～12/24 中央アルプス（正沢川幸ノ川・悪沢）	1	氷	12/29～12/30 名張	2+1	R
12/11 御前岩	1+1	R	12/22 城山（ワイルドボア）	1+1	R	12/30 湯河原幕岩	1	R
12/13 御前岩	1+1	R	12/23 八ヶ岳（三叉峰ルンゼ～無名峰南稜）	2	R			
アルパインクラブ横浜	http://acy.jpn.org/							
報告：神谷　敬	計34名 （女13名,男21名） 平均年齢：45歳							
12/1 妙義　高岩	2	R	12/9-10 中央ア 三ノ沢岳	1	S	12/23-24 八ヶ岳地獄谷エリア	3	R
12/2 丹沢　モミソ岩	7	R	12/10 丹沢　塔ノ岳	3	A	12/23-24 甲斐駒ヶ岳	4	S
12/2 城ケ崎	2	R	12/10 鋸山(千葉)	4	H	12/25-26 木曾駒ケ岳	2	S
12/2 いわき青葉の岩場	1	R	12/10 伊豆　城山西南カンテ	4	R	12/29 奥多摩　越沢バットレス	2	R
12/2-3 宝剣岳F沢	3	R	12/10 伊豆　城ケ崎	4	R	12/29-30 槍ヶ岳	2	S
12/3 丹沢広沢寺	5	R	12/16 富士山佐藤小屋周辺	6	A	12/29-1/2 燕岳	1	S
12/3 丹沢　セドノ沢	3	沢	12/16 谷川岳西黒尾根	1	S	12/30 伊豆　城ケ崎	2	R
12/7 小川山ボルダー	2	R	12/17 伊豆　城山	4	R	12/30 赤城山（長七郎岳）	2	S
12/8-9 雲取山	2	A	12/17 伊豆　城ケ崎	2	R	12/30 湯河原幕岩	3	R
12/9 谷川岳天神尾根	7	S	12/17 奥多摩　つづら岩	2	R	12/30 宝剣岳中央ルンゼ	3	R
12/9 城ケ崎	2	R	12/23 阿弥陀岳北稜	4	R	12/30-31 八ヶ岳　天狗岳	4	S
12/9 湯河原幕岩	2	R	12/23 湯河原幕岩	4	R	12/30-31 爺ヶ岳	7	S
12/9 丹沢広沢寺	4	R	12/23　伊豆　城ケ崎	2	R			

相模アルパインクラブ　https://sagami-ac.sakura.ne.jp/								
報告:山行管理部　計41名(男25名 女16名)　平均年齢 54.7歳								
12/2 高尾　北高尾山稜	1+1	A	12/10 丹沢　仏果山～経ヶ岳	1	A	12/23 湯河原幕岩	4+1	R
12/2 横須賀　鷹取山	1+1	R	12/11 湯河原幕岩	3+1	R	12/23～24　城ケ崎	2+1	R
12/2 丹沢　ミズヒ沢	3	沢	12/13 湯河原幕岩	1+1	R	12/23～24　奥秩父 廻り目平から金峰山	1+2	A
12/2 湯河原幕岩	5+1	R	12/16 丹沢 モロクボ沢	1	沢	12/24 丹沢 日向薬師の岩場	2	R
12/3 西上州　妙義山木戸壁	3+1	R	12/16～17 谷川連峰　白毛門、谷川岳(西黒尾根)	1	A	12/25 伊豆 真鶴の岩場	1+1	R
12/2 奥秩父山塊南西部 兜岩	1+1	R	12/16～17　富士山　須山口登山道～宝永山	2+1	A	12/25 湯河原幕岩	2	R
12/2 滋賀県 湘南アルプス	1+1	R	12/16～17 富山国立登山研修所	1+8	S	12/25 谷川連峰 谷川岳(天神尾根)	1+1	A
12/3 奥多摩 つづら岩	2	R	12/17 湯河原幕岩	6+1	R	12/26 湯河原幕岩	3	R
12/3 湯河原幕岩	2	R	12/16～17 北秩父 二子山	1+3	R	12/23～29 台湾 龍洞の岩場	4+2	R
12/3 滋賀県 芹谷屏風岩	1+1	R	12/16～17 丹沢　大山、新大日	1+15	A	12/29 丹沢 水無川本谷	2	沢
12/4 伊豆 城山	4+4	R	12/17～18 南アルプス 黄連谷左俣	1+1	氷	12/30 伊豆城山	2	R
12/9～10　城ケ崎	11+2	R	12/18～19 城ケ崎	3+4	R	12/30～1/1 南アルプス竹宇駒ケ岳神社～黒戸尾根～甲斐駒ケ岳	1+1	A
12/9 丹沢　春岳沢	1	沢	12/19 奥多摩 御前岩	1+2	R	12/29～1/1 南アルプス 甲斐駒ヶ岳・黄連谷左俣	1+1	氷
12/9～10　伊豆 城山	1+2	R	12/23 丹沢　小草平ノ沢	2	沢	12/28～1/4 三重県　神須ノ鼻 楯ヶ崎　名張香洛渓	2+1	R
12/9～10　南アルプス 黄蓮谷 坊主ノ滝	1+1	氷	12/23 大山南稜	1	A			

救助隊主催 雪崩捜索救助搬出及び雪上歩行訓練のご案内＜詳細計画中＞

２０２４年１月１８日（第１回目配信）

神奈川県勤労者山岳連盟 救助隊隊長 早川 尚武

日　程　２０２４年３月１６日（土）～１７日（日）

場　所　３／１６：雪崩捜索救助訓練 ー〈白馬八方尾根スキー場あたりなど(計画中)〉及び雪上テント泊訓練

３／１７：雪山歩行訓練山行（一般会員向け訓練。救助隊が講師として引率。）

※希望者は雪上テント泊または、山麓の宿泊施設利用にて、翌日継続参加できます。

要　項　１６日 雪崩救助訓練実施。ビーコン捜索、プロービング、要救助者の掘り出し、搬送訓練 一般会員で希望者は、救助隊による雪上テント泊講習に参加可。 翌日の山行に同行の希望者のうち、山麓の宿泊施設利用者は一旦移動し、翌朝に合流。

１７日 八方尾根登下降。目標地点は、参加者の構成によって判断。(時間を設定し引返し)

全国・県連スケジュール

日	曜	１月	日	曜	２月	日	曜	３月
1	月		1	木		1	金	
2	火		2	金		2	土	
3	水		3	土		3	日	常任理事会
4	木		4	日	常任理事会	4	月	
5	金		5	月		5	火	
6	土		6	火		6	水	
7	日		7	水		7	木	
8	月		8	木	救助隊運営会	8	金	
9	火		9	金		9	土	
10	水		10	土		10	日	**県連総会**
11	木	救助隊運営会	11	日		11	月	
12	金		12	月		12	火	事務局長会議･事務局部会
13	土	関東雪崩（実技）	13	火		13	水	
14	日	常任理事会/関東雪崩（実技）	14	水		14	木	救助隊運営会
15	月		15	木	教育部会	15	金	
16	火		16	金		16	土	雪崩捜索救助訓練・救助隊
17	水		17	土		17	日	雪崩捜索救助訓練・救助隊
18	木	教育部会	18	日		18	月	
19	金		19	月		19	火	
20	土		20	火		20	水	
21	日		21	水		21	木	教育部会
22	月	第１回クリンハイク実行委員会	22	木		22	金	
23	火	事務局長会議･事務局部会	23	金		23	土	
24	水		24	土		24	日	
25	木		25	日		25	月	自然保護委員会
26	金		26	月	自然保護委員会	26	火	
27	土		27	火		27	水	
28	日		28	水		28	木	
29	月	自然保護委員会	29	木		29	金	
30	火					30	土	
31	水					31	日	
			2/3～5　第 37 回全国雪崩講習会					